

和歌山病院での実習を終えて



田辺 美紗子

呼吸器内科臨床実習の一環として国立病院機構和歌山病院で2日間実習をさせていただきました。南方院長先生をはじめ、多くの先生方に忙しい中セミナーを行って頂き、大変貴重な経験となりました。

院長先生には2日間を通してレントゲン読影の基礎、肺の基本構造を体、頭をフルに使って教えて頂きました。先生がおっしゃっていたように、5年前の受験以来、医学部にきてから覚えることに追われていて一番大切な“考える”ことを忘れてしまっていた気がします。臨床症状と疾患、治療を1対1に結び付けて覚えるのではなく、画像所見や臨床症状をヒントに患者さん一人一人の病態を考え、何が起こっているのか、適切な検査、処置は何かを考えていく力をこの臨床実習の期間に鍛えていきたいと思えます。私たちの頭に油をさすような刺激的な授業を行って頂きありがとうございました。

副院長先生をはじめ多くの先生に結核に関連するセミナーを行って頂き、実際に結核病棟を見学し、施設設備のしくみについて教えて頂きました。結核の基本病態や感染予防の方法を学び、実際にマスクをつけて過ごすことで結核病棟で働く医療従事者や、実際にそこですごす患者さんの立場を経験させて頂きました。また結核患者さんのレントゲン写真の特徴、見方を教えて頂き、将来自分が医師になったときに結核患者さんに出会うことがあったら見落とすことがないようにしたいと思えました。

2日間という短い時間ではありましたが、外病院での実習は新鮮で普段の大学とはまた違ったことを学べる場であり、有意義な実習となりました。お世話になった先生方、スタッフの皆様に感謝申し上げます。